

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ハイパー&グリーンイノベーション水島コンビナート総合特区(岡山県)	4.1	4.5  進捗度 ・企業集積によるコンビナートの成長と雇用の確保 234%  ・企業間連携による用役コストの低減 110%  ・水島港の輸送効率改善による貨物取扱量 82%	3.8  規制の特例等 ・地域活性化総合特別区域ガス融通事業  ・回送運行効率化事業  ・分割可能貨物輸送効率化事業  地域独自の取組 ・高圧ガス保安法に係る保安検査報告書の提出期限の延長等	4.0	<p>・評価指標(2)に関しては、減少傾向にあったものの、R3年度は当初の値に近いところまで増加したことは評価できる。この点について「大型船舶が入港可能なバルク専用埠頭の供用開始」によりさらなる増加が期待されるとあるが、参考値として記載されているR2の取扱量や船舶数だけを見ても、判断できないため、例えばR1の数値も併記してあると、その効果がわかりやすいのではないか。</p> <p>・これまでの外部委員の意見も踏まえて、評価指標(2)水島港の輸送効率改善による貨物取扱量の数値目標である「水島港取扱貨物量/水島港入港船舶隻数」を計画の趣旨に即した定義に変更しており、その上で目標数値の8割を達成している点など改善が見られる。また、規制緩和措置などソフト面での取り組みに加えて港湾施設などハード面の整備により、国際バルク戦略港湾の実現に向けて着々と事業を進めている。</p> <p>・本特区の目標の一つである「高度な企業間連携による高効率・省資源型コンビナート構築」に向けた「バーチャル・ワン・カンパニー実現」のための取り組み(ユーティリティ共同化整備、オフガス・水素ハイウェイ整備、回送運行効率化等の規制の特例の運用)が継続して成果を挙げている点が高く評価される。数値目標(2)の水島港の輸送効率(取扱い貨物量÷船舶隻数)については目標には届かないものの、手数料免除やとん税非課税要件緩和などのソフト面での取り組みとハード整備が港湾効率改善を支えている。船舶の大型化による輸送効率改善は世界的な潮流でもあるので、本特区の特性を十分に活かすためにはさらなる先進的な取り組みが今後は必要ではないか。岡山県の産業集積の特性や立地条件を活用した先進的な取り組み(自動化、IoT・AI利用などの港湾スマート化など)で効率性向上によるさらなる競争力向上を目指してほしい。</p> <p>・概ね良好に進めていると思われるが、港湾機能の強化がほとんど進んでいないのは、残念である。</p>